市民ネットワークみはま

みはま まちづくり通信

2021 年冬号 NO.102

編集・発行　市民ネットワークみはま
◎事務所
千葉市美浜区高洲 3 丁目 20-45　細矢ビル 403 号室
TEL/FAX　043-278-5005　E-mail mihama@chibanet.jp
HP　http://mihama5005.chiba.jp/
配布地域 美浜区　配布部数：25000 部

美浜区長を訪問

1 月 14 日

会場はソーシャルディスタンスを保って

毎年みはまネットでは、次年度の予算要望書が出来ると、区長を訪問し意見交換をしている。

今年はコロナ禍において、工夫していることや窓口対応、地域活性化事業の状況を中心に話し合った。窓口や防災、福祉関連等では、感染予防を最優先に考慮しているが、普段とあまり変わりないと話された。

気になったのは新生児訪問は今までと同じように出来ないし、離乳食教室は中止になり、普段とは違う環境で不安になっている乳児の保護者のこと。訪問を断らなくてはいけない人や、電話で気持ちを伝えられない人の声が、保健福祉センターには届いていないように感じた。現場での対応を確認していただけるよう申し入れた。

児童相談所にパンを届けるプロジェクト

9 月から開始したパンプロジェクトは、多くの方から寄付をいただき継続しています。12 月には、通常回に加え、クリスマスのパンを届けることができました。子どもたちからの、うれしさがあふれる手紙は、パンをお願いしている父の樹会や私たちにも、活力を与えてくれます。

クリスマスパンを届け、子どもたちの作ったツリーをいただきました

メッセージを付けてパンを届けます。

◆ 寄付の方法 ◆

◎郵便振替
00170-7-180047
市民ネットワークちばみはま事務所
・パンプロジェクト寄付と明記ください。
・振込手数料はご負担ください。
◎事務所に持参
平日 10 時から 16 時に開所しています。

この活動を継続していくためには資金が必要です。ぜひ、寄付で支えていただけますようお願いいたします。

PCR 検査 社会的検査の早期実現を

体験記

磯辺　岩橋百合

コロナ下で 1 年近く面会出来なかった母が、衰弱してきている、との連絡が入った。オンラインで元気にしゃべってからさほど経っていなかったので驚いた。熊本県 K 市の母の施設では面会は 2 週間滞在後、検査を受けてから、と言われていた、改めて施設に問い合わせると、1 週間待機して PCR 検査を受けて欲しいとの事。

PCR 検査はどこで？

PCR 検査をどこで受けるかについては知らない、との事。困って K 市の保健所に電話したが、お教えできない、と言われた。熊本県庁も同じだった。困り果てて、怒りもわく中、とにかく何とか検査をと、インターネット検索し、自費で検査ができるところを探して東京都 11 カ所、千葉県 6 ヶ所をピックアップ、しかし話題になった新橋の検査センターはすでに 1 月 18 日以降でないと受け付けできず、結局千葉市のクリニックのキット検査を選択。

2 日後に陰性の連絡を受け、飛行機のチケットを取り、熊本に向かった。12 月 27 日だった。やはり滞在後にも検査をと言われることが予測され、千葉で別の検査キットを申し込んだが出発時までに着かず、もう一つを熊本の実家あてに送付を申し込んだ。PCR 検査をしてくれるところがわからない状態だったからである。

現地でも二転三転する情報

そしてホテルに滞在 2 日目、もしかしたら、と母の主治医に相談したら何とその病院で検査はできる、年末年始で休みなので 1 月 4 日にとのことで予約しホテルでの日々を消化、しかし 31 日に担当看護師から連絡がありいよいよの時が近づいているので今すぐ医師会病院で検査を受けて、との新たな提案。

検査を受けて結果を待つ 50 分の間が耐え難く長く感じた。そして陰性が出てタクシーで母の施設に駆け付けたが、陰性が出たばかりなのに防護服を渡された。母はすでにほとんど意識がなかったが呼びかけにはわずかに答えてくれた。オンラインで孫たちも対面し声をかけた。　しかし、10 分で施設外に出るように言われた時の耐え難い思いは、今でも涙が出てくる。母はその翌日、21 年の元旦早朝に、再び駆け付けた私と妹に見守られて亡くなった。

間違っている政府の PCR 検査方針

アメリカに住む友人の息子さんはすでに 4 回 PCR 検査を無料で受けているとのこと、撮影で人と会う仕事なのでなるべく頻繁に検査をしているとのこと、なぜ日本では PCR 検査がこれほどまでに受けにくいのか。無症状者から感染することが明らかになり、クラスターと濃厚接触者だけの検査では患者の全体数が把握できない事は誰の目にも明らかだ。方針を転換して社会的検査に切り替えるべきだ。

いつでもだれでも不安に思った人や必要な人が検査を受けられて早急に投薬や治療が得られる体制を作ることが必要だ。私たちに出来ることはコロナ対応ができない政権には退場してもらう事だと思う。自治体の中にも世田谷区や広島市など社会的検査に近い体制を作ろうとしている自治体も出てきた。千葉市も続いてほしいと願う。

戦争の話を聞かせてください　番外編

宮澤縱一著『傷魂 - 忘れられない従軍の体験』（冨山房インターナショナル）を読んで

1946 年出版、昨年（2020 年）ルビ付きで復刻出版された。音楽評論家の著者は 1944 年に応召、20 日間の訓練で輸送船に乗りフィリピンに向かったものの、そこは狭さと暑さと暴力が蔓延する地獄船。マニラを経て、密林で負傷し、動けなくなっているところを奇跡的に米軍の捕虜になって生還。多くの戦友は亡くなったが、遺族はどんなに小さいことでも現地の事情を知りたがっているとの思いから筆を執った。戦死者の多くは、弾丸に倒れたのではなく、食料不足と上意下達の理不尽な日本軍によって殺されたとの見解。兵隊たちが「どんな小さな国でもよい、平和な国に生まれればよかった。何が無敵日本だ。」と不幸を嘆いたことを、世代を超えて肝に銘じなければならない。（打瀬　松井）

地域から平和をつくるために、体験談を聞き取りしています。
記憶が曖昧でも構いません。ご連絡をお待ちしています。

読みカフェ&手作りカフェに参加しませんか!

事務所にご連絡ください

手作りカフェ　毎月第 3 水曜

干支は 3 か月かけて作成した力作
アクセサリーやポーチなど、おしゃべりしながら作業が進みます。

読みカフェ　毎月第 4 水曜

声を出して読んで、心も体もリラックス

市政相談　毎月 10 日

毎月 10 日 10：30 ～ 16：00（土日祝も含む）
「身近な問題を解決したい」などの相談に代理人（議員）や代理人経験者がお話を伺います。無料
事前に事務所にご連絡ください。（平日 10 時～ 16 時）